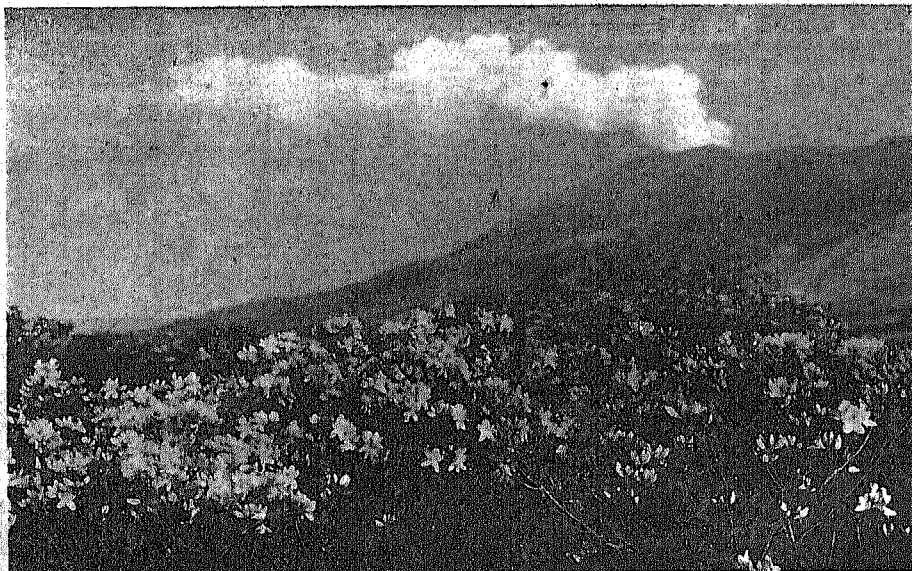


# 報會曲千

日十三月四年六十和昭

號 四 第

會曲千人法圖社



## 目 次

- △表紙 陽春麗花薫る浅間山麓 (一)
- △遠藤保太郎教授退官 井上 柳梧
- 遠藤教授を送る 佐藤 利一
- 惜別の情に堪へず 佐藤 利一
- 遠藤先生を送りて 佐藤 春太郎
- 遠藤先生の御退官を惜む蒲生俊興
- 鮮かだつた遠藤先生 山口定次郎
- 遠藤教授の著書、報文
- △敍任辭令 (四)
- △細川助教授榮轉 (五)
- 細川助教授を送る 奥 正巳
- △デューボン氏のファイバーDの發表 (五)
- △第廿八回卒業證書授與式 (六)
- △昭和十六年度入學許可書 (七)
- △母校便り (八)
- 實業教育振興會章、針塚章授與
- 「ちくま」第三十七號發刊
- 滑空班活動準備進む
- 教務課長、圖書課長移動
- 學生、集團作業指導者訓練を受く
- 生活部購買班の活動
- △本會記事 (九)
- △支會通信 (九)
- 静岡支會總會の記
- 朝鮮春の便り 絲二七 破帽生
- 軍隊生活斷片 絲二七 破帽生
- △計 報 (十)
- 弔慰金募集
- 故佐谷戸健次郎氏の英靈を弔ふ 蒲生 俊興
- △會員動靜 (十二)
- △新卒業生就職先 (十三)
- △指定旅館案内 (十四)

## 遠藤教授御退官

遠藤先生の御経歴

明治二十年十月十五日生

春花まだき三月の始めに遠藤先生の  
嚴父殿の御凶報を御傳へ申上げて間も  
なく、本誌編輯子は自分の郷里伊那に  
於て突然先生御退官の御決意を耳にし  
たのである。そして四月一日には先生  
始め御家族の皆様を上田驛頭に御送り  
して永い訣別をしたのである。  
その去り行く姿の餘りに鮮かで、且  
つはあつけなく、思へば先生にまつて  
上田の地は先生の思出の地であり、亦  
學校としては學界、業界に對しては名  
實共に備つた一つの大きな看板であ  
つた。惜別の情は更に禁じ得ない  
ものがあると思ふ。本誌は此所に有志  
の御賛同を得て先生の記事を掲げ、先  
生多年學校、學界、業界に竭された御  
功績を偲びて會員一同と共に先生の御  
退官を惜み、越路の閑居に餘生を送ら  
るゝ先生並びに御家族様方の末永く御  
健康の程を御祈り申上げたいと思ふ。



授教藤遠ゝるま惜を官退

明治廿八年三月新潟縣立長岡中學校卒業  
同四十二年七月第三高等學校卒業  
同四十五年七月東京帝大理科大學卒業  
大正四年七月 東京帝大農科大學卒業  
同 上田蠶絲專門學校講師囑託  
同 任上田蠶絲專門學校教授  
同 六年四月 絛高等官七等  
同十二年十二月 桑樹學、植物生理學研究の爲  
め滿二年間獨佛米に留學  
同十四年六月 歸朝  
同十五年二月 絛勳六等授瑞寶章  
昭和四年七月 文部省視學委員  
同 九月 絛從四位  
同十二年八月 勅任官待遇  
同十三年八月 絛勳四等授瑞寶章  
同 十二月 陸絛高等官二等  
同十六年三月

## 遠藤教授を送る

井上 柳 梧

我々開校以來三十有餘年此長き我々の歴史  
を作られたる數々の先生。我々をして磐石の  
重きを爲さしめたる其基礎を作られたる數々  
の職員程我々に取りて尊いものは無い。是等  
の職員が追々學校を去られる事程我々に取り  
て損失の大なるものは無く又此時程寂寥を感  
ずるものはない。先きに我々は針塚先生を送  
りて尙ほ幾何も無きに今日又遠藤教授を送  
るに到つたのである。是れ果して宿命である  
か然し實に惜別の情に堪えない次第である。

遠藤教授は大正四年七月東京帝國大學、農  
科大學を卒業されて同年四月我々に講師とし  
て赴任され、後大正六年に教授に任ぜられた  
のである。同教授は東大理科大學植物學科を  
卒業せられ、更に農科大學を卒業されたので  
ある。即ち理論と實地とを合せ修得せられた  
のであるから、裁桑學の研究には全くの適任  
者である。殊に同教授は植物の栽培には非常  
に興味を持つて居たのであるから此上も無い  
適者と謂はねばならぬのである。

同教授が生徒を導かるるや非常なる熱心  
を以てして自ら足袋脚絆を着けられ鎌を取りて  
先頭に立つたのである。尙ほ博覽強記にして  
雜草の名稱其性狀に通じ實習の間に是等に就  
きて詳しく教へたのである。同教授の研究  
は年と共に益々進展し遂に總括されて現はれ  
たのが日本桑樹栽培論である。當時我國に於  
ては桑樹に關する研究は洵に寥々たるもので  
あつたが、本書の出現によりて桑樹栽培に關  
する試験研究其他桑樹に關する事項が統一せ  
られ、系統建てられ學問的形態を備へるに到  
つたのである。大正十二年十二月に桑樹學及  
植物生理學研究の爲め滿二年間獨逸、佛蘭西  
及北米合衆國へ留學し一層研鑽を積み、留學  
中大正十四年六月農學博士の學位を授けられ  
大正十五年二月歸朝せられたのである。其後

益々研究を進め桑樹學に關して威權として蠶  
業界より尊崇の的となり、我々校名も同教授に  
より蠶絲業界に高くなつたのである。同教  
授は授業、研究の暇に絶えざる努力によりて  
桑樹實驗法、桑樹病理學及裁桑學通論等名著  
を次ぎ次ぎに著し蠶絲業界を指導し利せられ  
たる事は實に莫大なりと謂ふ事が出来る。最  
近に桑樹のウイルス病に關しても又大に研  
究を進められ多くの實績結果を得られつゝあ  
つたのである。教授は朝顔及菊の栽培には非  
常な妙を得られ毎年見事なる作を陳列せられ  
て人々を喜ばしめられたのである。尙ほ之れ  
に就きても著書がある。

本年三月同教授の嚴父突如逝去せられ同教  
授は家事繼承の爲め歸國せらるゝの已むなき  
に到つたのである。

教授は我々に在職せらるゝ事貳拾五年八ヶ  
月の長きに渡り養蠶科長より教務課長を轉じ  
我々の重鎮として要務を掌握されたのである  
我々として教授を失ふ事は棟梁の一を失ふ事  
になるのである。茲に於て教授の辭意を知る  
や我々の爲め更に又學界の爲め反省を乞ひた  
るのであるが、其の決意固くして觀す事を得  
なかつたのである。

四月一日午前十時四十四分上田發下り列車  
にて同教授は家族一同と共に出發さる。同教  
授の離別を惜みて送る人上田驛を埋む、誠に  
盛であつた。是れによるも教授の徳望の如何  
に高かりしを追想する事が出来る。  
終りに同教授に御家族の御多幸を祈る次第  
である。

住みなれし上田を後に

君は今ふるさととして

惜しく出立つ

訣別の言葉はいとも短かきも

惜しむ心は測り知らまし

## 惜別の情に堪へず

佐藤 利一

一河の流れを汲み一樹の蔭に宿るも是皆他生の縁とかや、況してや過去實に二十五箇年間同じ學びの庭に兄と呼び、友と呼ばれての樂しかりし昔の思出其懐しき兄遠藤保太郎博士今何處、博士は既に本年三月限りで上田市内新田のあの二階建庭前コンクリートの大きなフレイムのある、あの御住居には居られなくなつた。

博士は此四月一日に半生の間住みなれし上田の地を離れ御家族と共に御郷里長岡市外深才村の御實家に引上げられたのである。

僕は過去の一生を顧みて涙共になり別れの言葉に窮して殆ど語せなかつたことが三度ある。其中の一つは此度の我輩蠶科職員と遠藤博士送別茶話會に於ける送別の際であつた。言葉の途中に胸に浮き出づる數々の追憶、此會場三號蠶室の宿直室に博士を迎へて團樂の樂しみを味ふも今日限りかと思へば惜別の情抑へ難く感極まつて心も麻痺して了つたのであつた。我輩蠶科職員一同が傳統的に常に和衷協力の實を示し、假令意見の對立を見るが如き場合があつても感情の對立を見ることは絶對に無いが、これは遠藤博士の如き圓滿福徳の人格者の感化に由るものである。博士は如何なる場合にあつても口角泡を飛ばして人と争ふ様なことはされなかつた。時に甚だしき意見の相違のある場合と雖も和らき言葉で談笑の間に克く意見の接近妥協點の發見を完遂されるのが例である。人には味方千人敵千人と云ふが博士の場合は只一人の敵もない、これは全く博士の人徳の然らしむる所である。博士の行動はすべて誠意の現れであり其處には何時も表裏が無く策動がましき點が微塵も無いためである。

遠藤博士の講義や講演は内容の充實整備調等極めて評判がよかつたが、それは博士の眞面目、親切研究的等の性格の反映であらう。

授業の餘暇嘗つての養蠶科長や今迄の教務課長等の忙しい校務の傍にも孜孜として研究を怠らず、學位を獲られたのも本校に於てであり。尙幾多貴重なる研究業績をも發表されて居る。我輩蠶科と桑樹病理學とに於ては我國最高の權威者であられることは既に公知の事實である。然るに尙幾多難題を凌ぎ奮闘の博士の引退を見るに到つたのは止むを得ざる御家庭上の事情に基づくものと云へ、本校の爲には勿論學界の爲にも痛惜の限りである。遠藤博士の趣味には僕の趣味と同種のものがある。諸曲では二十數年來の友である。殆ど同時に入門し互に或はシテとなりワキ又はツレとなり、極めて仲よく語つて來たものである。博士は九番もの免狀を許される迄に大成された。斯道では博士夫人も亦夫君に劣らざるものならず其仕舞の技は披露のもので、羽衣會三羽鳥の御一人である。博士の花弁愛は朝顔、菊、サユメ、シクラメン等が主で殊に朝顔と菊との栽培技術は上田同好會員中の横綱格であつた。其栽培技術の進歩は正に驚愕の入門後僅に一年にして早くも入幕し二年にして一躍横綱に榮進と云ふ目覚ましき上達であつた。此方面の同好者からも博士の賞地引上げは非常に惜しまれてゐる。

博士の御家庭は稀に見る賢夫人倫子さんと間に三男三女を擧げられたが、いづれも秀才才媛揃て羨望の的になつて居る。すべての角度から觀て理想的に幸福なる御家庭と云ひ得る。將來御一同益々御壯健で御家庭の愈々隆盛ならんことを祈る。

終りに永年に亘る博士の過去の御友情並に御指導御援助を深謝すると同時に今後も尙幾らざる御交誼を御願する次第である。

## 遠藤先生を送りて

佐藤 春太郎

遠藤先生とお別れして、なぜこれ程寂寥感を感ずるのか、我ながら不思議でならなかつたが、よく考へて見れば、先生と私は、生れ故郷も同じ越後であり、又高等學校も同じ三高で、後亦同じ東京帝大農學部に學び、同じ此の上田蠶絲專門學校に勤めて、二十有餘年先輩として同窓として御指導を蒙りて居るうちに、いつの間にか兄上の様な氣持になつて居た事が、此度お別れして初めて我ながら氣付いた様な次第である。私の最も兄分である遠藤先生に就いて、思ひ出を書きと云ふならば、到底限られた紙面では盡しきれぬ處である。

先生は其御専門方面で第一人者であられ、又圓滿にして多趣味であられた事は、誰も知る事で、草花、盆栽方面の大家とも云ふ可き方であつたが、朝顔(此の御著書もある)や菊作りは、名人の域に達せられ、上田同好者の會長をされて居つた程であるし、晝は素人離れをして居られて、養蠶科標本室に陳列されてある精巧なる掛圖は、先生が御研究の餘暇を利用して、御描きになつたもので、常に參觀者の目を驚かして居る。此方面の事は他の方々がきつと書かれると思ふから、私は先生の諸曲に就いて述べる事にする。

私が此の學校に赴任して來た當時は(二十數年の昔となるが)上田蠶事では諸曲が非常に盛で、羽衣會を組織して職員多數もこれに参加せられ、斯道の權威者高橋先生を招聘して大に馬力をかけたものであつたが、長い年月の間に、いつの間にか一人去り二人散して最後迄全うせられたのは、五指にも足りなかつた(私などは勿論落伍者の筆頭でした)。

毎春舉行せられた高橋先生門下の諸曲大會には、第一人者針操先生、阿形先生と共に最終の出し物としての難曲を、美事誇ひぬかれ又養蠶部の若い職員方は、其婚禮披露の席上で先生の御祝言の諸曲で、錦上華を添へてもらつた事を忘れぬであらう。拙宅へも兩三度御出を願つて、語つていたいた事があ

が俊寛、鉢木等の情味は忘れられぬ思出である。

只一つ困つた事があつた、それは御一緒にお能を見に行つた時の事であつたが、私は一はやく痺れを切らして座を立ちたく、遠藤先生が連れられたら私も一緒に出ようと、先生の方ばかり見て居つたが、先生にはいづかな動かうともなされず、これには困つたが然しこれ程御熱心なればこそ、あの様な堪能になられた事と感心した。

思出は限りないが紙面の盡きた事を惜みつつ、先生始め御家族皆々様の御健康を祈つて筆を擱く事とする。十六、四、十四夜

## 遠藤保太郎先生の御退官を惜む

千曲會理事長 蒲 生 俊 興

本邦蠶桑學界の泰斗たる母校教授遠藤保太郎博士が御家庭の御都合上急に御退官の已むなきに到られたことは、母校は勿論本邦蠶桑學界の爲に甚しく惜しき極みである。先生は大正四年東京帝國大學農學部御卒業後間もなく田中長三郎博士の御後任として御來任あられ、其の間約二十六年に亘る長年月の間あの明敏にして該博なる頭腦を以て桑樹の生理病理の各般に亘つて斷えず劃期的な御研鑽を遂行せられ而かも極めて圓滿なる御人格と御造詣深き御知見とを以て、御在官中多數の同窓生がその御薫陶を仰いだことは吾々の生涯忘るゝことの出来ない所である。

殊に先生は獨り世界に於ける養蠶學の泰斗として尊敬の的であつた許りでなく、常に幾多の桑病の研究に専念せられ、社會に貢獻する所多大であつたことも亦周知の通りである此の意味に於て我母校の蠶絲界に於ける名譽確保といふ上から先生の御退官は實に惜しむても尙餘りある次第である。

尙先生には最近母校教務課長の重任を負



はれたるにも不拘、その寸暇を見て裁桑學に關する貴重なる不朽の名著を公にせられたばかりでなく、殊に御堪能なる花卉園藝に關し例へば大輪朝顔や菊花の栽培等に妙技を示され實に豊かなる御趣味の内に奥ゆかしい先生の御人格の躍動を拜することが出来たのである。

又先生が御著述を通じて吾が千曲會の海外留學資金等に多額の御寄與せられた事も吾等の誠に感激にたへない所である。茲に先生の御退任に際して會員一同を代表して謹んで感謝の意を表すると共に、先生御一家が愈々御健在にあられ永遠に母校のため陰に陽に御指導と御鞭撻とを給はらんことを冀つてやまない次第である。

(四月十三日)

### 鮮かだつた遠藤先生

山口定次郎

遠藤先生の追憶を記すには餘りにも御退官が突然であり、日も浅いこととせばばくは不思議な程に深刻な別離の情が湧き上らなかつた。きつとあの生物學教室へ再び温顔を見せて下さるに違ひないと思はれてならぬのだ。然し先生からの鄭重な御挨拶を頂いたり、又本紙主筆から何か書くやうにと命令されて漸く色々の想ひがこみあけて來た。

先生が學徳共に稀に見られる高潔な方であることは私が茲に申すまでもない。良き家柄境遇に人と成られ、理想の家庭、高尚な趣味をもたれ、又公人としては卓越せる科學者或は教授として又各部署の各部長とし活躍せられた事を私は最も良く存知してゐる一人であるかもしれないが、先生の全貌に就ては他の適當の方が記されと思ふので、私は學生時代から今日迄に終始篤き御訓誨をうけ御温情に浴した子弟の一人として、又雜誌編輯員の一人としての想ひ出を少し許り記して先生の偉徳を偲ぶがとすると共に今日迄の御厚情に對する感謝の微意を捧げたいと思ふ。

#### 筆さばき敏さばき

先生の印象は本校入學試験の時、植物學問題で苦しみめられたことにはじまる。あれから一年生二年生と、毎日植物學や植物病理學、農學等の講義や、植物實驗、園藝實習等と懇切に教授を受けた。先生の講義は實にノートし易かつた。難かしい生物學の諸問題を平易に講義して下さつた、吾々が生物學に異常の關心をもつ様になつたのも先生の感化によるものが大きいと時々想ひ出す。特に敬服を禁じえなかつたのは講義され乍らボールドへ無難作に畫かれた挿圖の一つ一つさへも、見惚れる様に巧妙なものだつた事である。而もそれを又無難作に拭消してしまはれるのが如何にも情しいものに思はれた。先生の論文や著書に接する人は誰しもその著者原圖の筆の鮮かさに感嘆せざるをえないであらう。今も養蠶部の標本室に十本餘り、桑の病菌の彩色圖が異彩を放つてゐるのはうれしい記念である。又日本畫や寫眞等も能くされるのである。之はあまり知られてゐない、何れも藝術味豊かな美しい作品である。

先生は授業中にも又平常にも時々輕い皮肉や警句を發せられてはホッホッホと上品に口をスポメて笑はれるのが特徴である。

又園藝實習の時はスマートな細い足に紺の脚絆甲斐々々しく我々の先頭に先づ範を云されたものだが此の姿は最近餘り見られなかつたもの、其の鮮かさは最近立ての美しき等に到底眞似ることが出来ない、凡て先生の仕事は鮮かであつた。

#### 「桑」と植物病理と遠藤博士

先生は農學、植物學何れも萬能であられるが、就中その著書「日本桑樹栽培論」樋口琢磨氏との共著「や、桑樹病理學其の他に見られる様に「桑」といへば遠藤博士であり、遠藤博士といへば「桑の病理學」を聯想される程に有名になつてゐる。講演行脚により日本各地にその足跡を残して居られることは一般の人々の間により多く知られてゐる位であらう。

#### 新種の發見

先生が植物病菌の新種を數多く發見し、種名を定行はれ之に夫々命名されてゐること、吾々の學生の頃から屢々耳にしてゐる所であつた。此の頃想出のまゝに先生の著書や手近い雜誌を開いて見て今更の様に感嘆した。何か寶石でも拾ひ取る様な思ひで摘録したものが別記の通り一五種に上つてゐる。之は取急いでの調べて充分でないかもしれないが、判明次第訂正することとしよう。此の他最近には養蠶科長や教務課長の重職の傍ら、植物特の方面で一人舞臺の觀があつた。今先生が此の御仕事を中絶されることが色々の意味に於て痛惜の極みであると思ふ。それにつけても先生の良き補助者であり共同研究者であられた樋口琢磨氏の早逝は返す返すも口惜しき極みである。

#### 蠶絲學雜誌と先生

先生が陰に陽に千曲會の大恩人であられることは周知の事である。殊に私は蠶絲學雜誌編輯に携はつてゐるものとして、常に有難く思つてゐたことは先生の最近の論文はそれが何れも非常に貴重なるものであり、又もつと讀者相の多い雜誌にもあるのに決して他の雜誌には寄稿されず、千曲會の爲に蠶絲學雜誌へ御惠稿下さつたことである。その御後援によつて何れも雑誌の價値が高められ研究者は啓發せられ、指導激勵されたか知れないと思ふ。此の御好意に對して改めて紙上に深謝の意を捧げるものである。

以上とりあえず先生の片鱗を記したにすぎないことを御断りする、先生よ失禮の點は御許し下さい。

#### 遠藤教授の著書及報文

角のとれた温容裕かな先生の御性格は常に人を和けずには置かなかつた。その上高尚な趣味は側から見れば一寸並はづれた崇高さを覺ゆる程であつた。そして先生御自身の御研鑽の分野と相容れて、益々學術方面の蘊蓄を傾けられ學界に残された數多くの足跡は斯界を裨益するに餘りあるもののみにして、本誌はその一部を掲げて先生の御力闘を讃へたいと思ふ。

著書		頁數	年代
一、最新桑樹栽培學	丸山舍	六三	一九二〇
一、實用栽桑講話	明文堂	三四	一九二〇
一、桑樹病理學	明文堂	三三	一九二〇
一、日本桑樹栽培論(樋口琢磨)	明文堂	八五	一九二〇
一、桑樹實驗法	明文堂	二九	一九二〇
一、大輪朝顔栽培考	明文堂	二五	一九二〇
一、日本蠶絲業史(栽桑史)六日本蠶絲學會	明文堂	一九	一九二〇
一、栽桑學通論	明文堂	一九	一九二〇
此外に			
一、桑樹栽培學汎論			
一、栽桑學教科書			
一、最新式栽桑教科書			
一、同窓會發表のもの			

最新桑樹栽培學	丸山舍	六五	一九九
實用栽桑講話	明文堂	六四	一九〇
桑樹病理學	明文堂	三二	一九三
日本桑樹栽培論(樋口琢磨)	明文堂	八	一九元
桑樹實驗法	明文堂	三元	一九〇
大輪朝顔栽培考	明文堂	三五	一九〇
日本蠶絲業史(栽桑史)(大日本蠶絲學會)	丸山舍	九六	一九九
栽桑學通論	明文堂		一九〇
此外に			
栽桑學教科書			
最新式栽桑教科書			
同窓會讀表のもの			
桑條の皮目數(宮島徳一郎、佐藤善衛)	二號	(一九二五)	
桑樹の耐寒性について	二號	(一九二五)	
桑樹發芽促進試驗(宮島徳一郎、佐藤善衛)	三號	(一九二五)	
桑の乳汁に就て	三號	(一九二五)	
桑苗摘葉の影響に就て(佐藤善衛、服部總作)	五號	(一九二五)	
桑の新病原菌二種	六號	(一九二五)	
繭繭及絹絲油焼に關する研究(樋口琢磨、石原石司)	八號	(一九二五)	
桑の細菌病に關する研究 附心止蟲及ハマダラバへの事に就て	一〇號	(一九二五)	
蠶絲學雜誌に發表せるもの			
桑種子の發芽並に子苗の發育に及ぼす各種化學物質の影響(今村良樹)	一號	(一九二〇)	
桑樹の樹液流動開始測定法(山下忠雄)	三號	一號	(一九二〇)

## 遠藤博士の命名された植物病菌新種

- 桑の細菌病原菌……*Bacterium moricolum* Yendo et Higuchi  
 桑の煤病菌……*Dimerosporium* Mori, Yendo  
 全 上……*Meliola morifolia*, Yendo  
 全 上……*Schenckiaella* Mori, Yendo et Higuchi, nov. sp.  
 桑の擬似胴枯病菌……*Fusicoccum* Mori, Yendo, sp. nov.  
 全 上……*Valsa moricola*, Yendo, n.sp.  
 全 上……*Macrophoma moricola*, Yendo, n. sp  
 桑葉褐斑病菌……*Septoria Kuwaecola*, Yendo  
 桑の葉枯病菌……*Hormodendrum* Mori, Yendo  
 桑葉のエヒコ種……*Epicoccum* Mori, Yendo et Higuchi  
 全 上 (附)……*Thyrococcum* Mori, Yendo, nov. sp.  
 桑葉の黄粉菌……*Glomerularia* Mori, Yendo, sp. nov.  
 桑葉の菌類一種……*Coniothyria* Mori, Y. Yendo sp. nov.  
 桑の粘菌……*Plasmodiophora mori* Yendo.  
 グミの根腐菌……*Tetramyxa Elaegui*, Y. Yendo, sp. nov.

- 一、粘菌の寄生による桑樹の新病害 (今村良郷) 二卷一號 (一九三〇)  
 一、桑に發生する菌類の新種に就て (高瀬毅一) 四卷三號 (一九三三)  
 一、桑葉上の黄粉菌新種に就て (今村良郷) 五卷二號 (一九三三)  
 一、桑の赤衣病菌 (高瀬毅一) 五卷二號 (一九三三)  
 一、桑の擬似胴枯病菌 (高瀬毅一) 六卷三號 (一九三五)  
 一、グミの根腐に就て (高瀬毅一) 四卷三號 (一九三三)  
 一、植物のグイラス病七卷三號 (一九三五)  
 一、絹絲の青斑と其の原因 (倉澤恒夫) 八卷一號 (一九三五)  
 一、桑樹グイラス病の研究 (倉澤恒夫) 卷號 (一九三七)
- 一、桑樹のグイラス病に關する研究 (其の二) 卷號 (一九三五)  
 一、富山縣下に發生せる桑樹の萎黄病に就て (原利夫) 卷號 (一九三五)  
 一、桑の夏芽枯病に就て 卷號 (一九四〇)  
 一、桑樹のグイラス病に關する研究 (其の三) 卷號 (一九四〇)
- 一、桑樹のグイラス病に關する研究 帝大理科紀要に發表せるもの  
 一、植物注射に關する研究 本校學術報告に發表せるもの  
 一、絹絲の褐色化に關する研究

## 叙任辭令

- 現職員之部  
 上田蠶絲專門學校教授 遠藤 保太郎  
 從四位勳四等  
 上田蠶絲專門學校助教授 小松 忠一郎  
 上田蠶絲專門學校教授 阿久澤 清  
 任上田蠶絲專門學校助教授 阿久澤 清  
 給五級俸 (以上三月二十九日)  
 上田蠶絲專門學校教授 遠藤 保太郎  
 賜一級俸 依願免本官  
 上田蠶絲專門學校教授 林 貞三  
 六級俸下賜  
 上田蠶絲專門學校教授 羽島 不二夫  
 十級俸下賜  
 上田蠶絲專門學校助教授 小川 朋次郎  
 給五級俸  
 上田蠶絲專門學校助教授 阿久澤 清  
 依願免本官
- 卒業生之部  
 任經濟部技士、被薦任三等 (本間茂銳 十二月)  
 朝鮮總督府郡守 三級俸下賜 (十五年十二月二十八日) 木山 勝雄  
 栃木縣立宇都宮農學校教諭 精谷 達三  
 公立實業學校教諭 任ス、高等官七等特選 宇都宮農學校教諭 補ス (三月四日) 福谷 朝太郎  
 朝鮮公立實業學校教諭 六級俸下賜 (十五年十二月二十八日) 宮島 庄平  
 七級俸下賜 (十五年九月三十日) 山形 新太郎  
 群馬縣農林技師 任ス、高等官七等特選 地方農林技師 任ス、高等官七等特選 群馬縣農林技師 補ス、被薦任七位 (三月八日) 順ニ依リ本職ヲ免ス (三月十日)

## 御 挨拶

謹呈 陽春の候益々御清穆の段奉賀候  
 陳者 近生儀 上田蠶絲專門學校奉職中は公私に亘り格別の御高援と御懇情とに預り半世を有意義に且つ愉快に過ごし得たことを感謝罷在り候處今般俄に退官歸郷の餘儀なきに至り實に後髪を引かるゝ思ひに有之候今後は此の越路の片田舎に於て自然を友に餘生を送り度き決心に御座候が何卒御見捨なく相變らずの御交誼を賜り度奉候願候  
 先は御挨拶申上げ度如斯御座候  
 敬具

昭和十六年四月八日

新潟縣三島郡深才村字福田

遠 藤 保 太 郎

# 細川助教榮轉

纖維化學科の細川助教は突然日本人造羊毛株式會社に榮轉されることとなつた。同助教は昭和七年本校蠶絲科卒業以來、纖維化學科の前身蠶絲化學教室副手として絹絲化學、人造纖維等の研究に従事、昭和九年に講師となつて化學實驗を擔任、昭和十五年纖維化學科の増設に依つて助教に任ぜられ、尙報國園のスキー山岳班長を勤められてゐた。今後益々御發展を祈る次第である。

## 細川助教を送る

奥 正巳

新設の我が纖維化學教室から細川助教を送らねばならなくなつた。教員の増員を願ひこそすれ今此の時期に有力なる同君を我が教室から失ふことは、ひとり纖維化學教室の損失であるのみならず、延いては當校の大なる傷手である。三月に入つてから話は急轉直下して日本人造羊毛株式會社から入社願となつたわけである。

細川助教は昭和七年三月當校蠶絲科出身である。生れは地元で出身中學も地元の上田中學、蠶絲專門學校を出てから直ちに絹絲化學教室に入つて、井上柳橋先生の下で滿洲柞蠶絲の利用に關する研究を手傳つたのが抑々化學に身を投ずるやうになつた最初の因縁である。生來化學は好きであつたことは勿論である。

昭和八年四月に副手を拜命し、井上博士の下で再生絹絲製造の研究に従事し、人造絹絲の製造も實習した。之が同君の人造絹絲に甚だ興味を持つに至つた動機であらう。

次いで昭和九年三月に講師職となり製絲紡績科一年の化學實驗を擔當し、その傍ら次の諸項目に就て研究を進めて行つた。

- 一、絹のアミノ酸組成に關する研究
  - 二、人造絹絲製造研究
  - 三、キチン纖維製造に關する研究
  - 四、蠶毛羽の擬毛化に關する研究
  - 五、蠶蛹よりマギーソール製造に關する研究
- 等、而して支那事變一度起るや昭和十二年十月末教育の身に在り乍ら應召を受けて市川高射砲聯隊に入り猛烈なる軍隊訓練を受けるに至つた。元來餘り丈夫でなかつた同君も此の軍隊訓練は相當に心身の鍛練となつて、除隊後の研究の粘りに一役を果すに至つたことは勿論である。

昭和十三年四月に召集解除となつた折しも筆者は職を當校に奉じて細川君と室を同じくするに至つた。余に取つては學校内のガイド役として萬事御厄介になつた、そして研究事項も共にやることになつた。それは大豆並に落花生蛋白質の人造纖維製造研究である。日本人造羊毛株式會社からの委嘱研究である。爾今二年有半、幸ひにも細川助教の異常の頑張りと精進によつて大豆蛋白質人造纖維は一種他の製品を凌駕するに至つた。落花生蛋白質の如きは副産物の研究であつたとは云へば二重に二重の強力のものを得るやうになつた。大豆纖維も一、五g/dの強力を得るに至つた。かく短日月の間に近歩し得たのは以前に井上博士の下で再生絹絲の研究をやつた賜物と思ふ。

纖維化學科の新設成れる昭和十五年の七月に助教に榮進し、同時に二、三新らしい授業科目も擔任し、纖維化學科一年生の親しい先生として慈兄の如く慕はれてゐたのである。今は休暇中であるが若しも學生が新學年に歸つて來たらどんなに驚き落膽することであらう。か過去二年有半の大耳蛋白纖維の研究が實驗室的に實を結んで、日本人造羊毛の招聘に應じて獨特の技術をもつて入社されることになつたのである。同社は九州大分市に在る

人絹會社で、人絹、人絹の製造の外に荳蛋白製造で有名である。否それよりも金光厚生大匠の社長たりしところと言ふ方が知れ亙つてゐるかも知れぬ。さて細川助教の私生活の方に少し觸れよう。同君には一人の慈母があり、幼時より眼の中に入れても傷けない迄に附き切りで愛撫して來られた。併し昭和十四年の五月に結婚されて今は御曹子を設けて立派に國民の第一義務を果しつゝある。

同君は上田以外の土地での生活は初めてである。郷里の冬季の寒さに比して大分市は全く暖國である。殊に天下に有名な別府温泉の隣り合はせてある。スキーの快味は味へなくて新鮮なる海の幸もあることであらう。現下纖維工業界の原料價値の折、幸ひにも滿洲にうなる大豆の蛋白質人造纖維の製造に關する特技を以つて實際工業界に入らんとする同君の將來に期待するや甚だ切なるものがある。君未だ春秋に富む廿一歳と云へばこれから廿年間が華々しい研究生涯だ。乞ふ自重自愛せられてただに我々の名譽を發揮せらるるのみならず、邦家纖維工業の爲に偉大なる貢獻をされん事を。(四月三日脱稿)

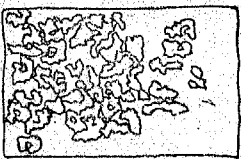
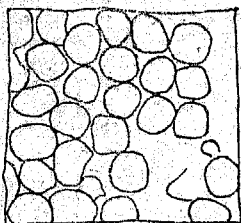
## デューボン氏の "Fiber D" の發表

レイヨン・テクスタイル・モンスリー 一九四一、一ヨリ

デューボン氏の人造絹部で同氏の實驗室で作られたファイバーDをヴィスコス法に依るステープルファイバーの新製品として發表してゐる。羊毛との混紡用のファイバーとして特徴あるものを二年位前に作つた事がある。之はC.H. Merlandに依つて一九三七年の十月十一月號の Rayon Textile 種々なる纖維の汚染度と云ふ論文で指摘されてゐる。その論文には次の様な事が述べられてゐる。「ファイバーで汚染度の低いものは主として直径が充分に大きく即ち、二七ミクロン以上で横断面に變曲が少ない滑らかなものである」と。

Fiber D

東洋紡



公立實業學校教諭 新瀨縣立加茂農林學校教諭 平石 兵衛  
正六位勳六等 鍵谷 傳  
正六位 久保田 正樹  
同 中島 茂雄  
正六位勳六等 芝 荒雄  
從五位 花岡 作彌  
從六位 以上二月一日

## 本校辭令

- 願ニ依リ副手ヲ免ス(三月十三日) 國島 正
- 願ニ依リ副手ヲ免シ講師職ヲ解ク(三月十八日) 市村 尙文
- 願ニ依リ副手ヲ免ス(三月二十二日) 工藤 榮次
- 願ニ依リ臨時副手ヲ免ス 富永 暉
- 願ニ依リ副手ヲ免ス(以上三月三十一日) 小縣 龍雄
- 學生銓衡實地指導ヲ囑託ス(四月一日) 高野 安次
- 雇ヲ命ス 養蠶科勤務ヲ命ス(四月四日) 瀧澤 留吉

此の二つの類微鏡寫眞でも解る様にその横断面が非常に圓滑である。此の二つの寫眞は普通のファイバーの横断面と比較して見たものである。此のファイバーDから作られたる織物は塵や汚れが洗ひ落し易いと云ふ特徴を持つてゐる。ファイバーDは十、十五、二十、二十五、三十デニール作られ粗細紗、絨氈、敷物、室内裝飾品や壁掛け、絹細ビロード、その他ほりの吸ひ易い織物には理想的である。之は非常に驚くべき事である。C.H. Maslandにも認められてゐる。此の種の織物製造家には一考を要すべきもので勿論宣傳價值も充分にある。

### 重大なる要素縮絨について

縮絨とは纖維の長さの方向に生ずる波であつて、上等なオーストリア羊毛の特徴としてよく知られてゐる。縮絨は絨や製品の高を増し柔軟となしめる。ファイバーDに於ても縮絨はその獨得の特徴である。羊毛の縮絨についてはアメリカカンツールハンドブックに於てズルナは次の様に述べてゐる「種々なる羊毛に於てその波の数は羊毛の品質に多少なりとも影響するものであつて、時當りの縮絨が多ければ多い程羊毛の品質は良くなる。又Beaseは縮絨は羊毛の品質を性質に加へてある。そして又此の縮絨はハンドリングやプロセシングする間に多少消へても簡單なる處理によつて容易に元に戻す事が出来る。此の様な事は初期のカラーされたレーヨンの縮絨がたやすく消へて失つた様なものとBeaseの根本的に違ふ點である。ファイバーDの縮絨はハンドリングによつて出来上つた製品の手觸りや、保温力に於て羊毛とは殆んど變らない、外觀を共へると云ふ事は疑ふ餘地の無い事である。勿論Beaseも人絹であるので直射光線では染色されたものは光澤に富み鮮明である。此の事は絨氈製造家にとつては非常に注意深く撰られた高價な白い羊毛を使ふ以外は、過去に於ては光澤を出す事が至難とされて來た事を考へればBeaseを使へば汚染度があつて鮮明な色で而も何時迄も色の

あせない美しい絨氈や敷物を作る事が容易に出来るわけである。

一般にBeaseレーヨンと同様に光澤も半光澤なものを等を作れば更に廣い範圍迄粗細絨製造家や加工業者に利用される事となる。更に短絨から作つた絨はその光澤や手觸りは絨の摺で自由に調節出来るので、短絨から作つたビロード類は透明で毛根立ちも良くする事が出来る。

又一方F.C.A. Trustにより本誌一九四〇年一、二月號に於て述べられた様に他の非常に優れた點は、粗細紗用羊毛が出荷の困難で需要供給や經濟狀で價格の變動の激しいのに比してレーヨンの價格の安定してゐる點である。之はひとりの品質や意匠の點のみならず、業者が要望する様な價格の點に於ても製品の價格を安定せしめる上に非常に役立つであらう。

### 他の利點

尙Beaseは以上述べ來つた事許りでなくこれから續けられた製品の性質が需要者の豫期以上に羊毛織物と比して優れた根本的な改良が加へられてゐる事である。即ちデューボン氏の「ゼラン」と云ふ仕上行程を行つたものは上等な羊毛から作られた織物とは殆んど區別がつかない程柔らかな手觸りをしてゐる。又斯様な敷物や壁掛け類は自然に防中性で防濕性、防火性等の處理も簡単に施せる。

デューボン氏の此の發表で特に次の様な事を述べてゐる、即ち圓いならかな横断面はデニクロン氏が、デニクロンの商標で賣出してゐる織物とは同系統のものではあるが、デニクロン氏の特許とは關係ない。以上の様なわけではBeaseは特に厚手織物用としてレーヨンの法のスティーブルファイバーに新用途を與へると云ふ事は疑ひのない事である。

## 第廿八回 卒業證書授與式

三月十五日午前十一時より母校講堂に於て第廿八回卒業證書授與式が來賓並に父兄多數の參列を得て舉行された。

式は宮城逸郎、英靈に感謝、皇軍武運長久、國難に始まり、各科卒業、修業者氏名呼稱し各科總代(養蠶科榎内明君、製絲科宮田章君、絹紡科澤澤今朝教君)に夫々校長より證書を授與、尙本年は特に實業教育振興會中央會より表彰狀が中島滿展君(紡卒)に、又針探章が各科優勝生(養蠶科松尾卓見君、製絲科茅野矩雄君、絹紡科中島滿展君)に授與、式辭として有益な錢けの辭があり、引續いて文部大臣祝辭(大瀧教授代讀)、來賓より鈴木長野縣知事(森本蠶絲課技師代讀)、淺井上田市長(小林市會議長代讀)、實業家代表成澤伍一郎氏、中等學校代表白田上田高等女學校校長、同窓會代表唐木田藤五郎氏等の處世訓を交へた祝辭があり、引續きつ祝電披露、在校生總代小林武志君(蠶)の答辭があり、最後に校歌を合唱して此の意義ある式典を閉じた。それより壽司とお茶の懇親會があつた。

### 井上校長の告辭

本日茲ニ當校第二十八回卒業證書授與式ヲ舉行スルニ當リ、文部大臣閣下ヨリ祝辭ヲ賜リ且ツ朝野貴賓各位ノ貴臨ヲ辱フシタルハ、本校ノ光榮トスル所ナリ。本日卒業生ニ修業證書ヲ授與セルベキモノハ

蠶科	三十九名
製絲科	二十八名
絹紡科	二十八名
製絲教養兼成科	四十一名
合計	百十名

諸子ハ入學以來能ク校規ヲ守リ校訓ニ從ヒ奮勵努力シタル結果、今日ノ榮冠ヲ獲ルニ到

レルモノニシテ、諸子ノ父兄ト共ニ歡喜ニ堪ヘザル處ナリ。今日日支事變ハ第五年ヲ迎ヘ、我國ハ陛下ノ御授命ノモト陸海軍將士ノ万難ヲ排シテ奮戰力闘ノ結果、多大ノ戰果ヲ收メ重要ナル地域ハ已ニ我掌中ニアリ。而シテ新中央政府ハ設立セラレ治安ハ大ニ回復セラレ、アルモ、尙ホ將政權ハ餘喘ヲ保チツ、アリ、時ニ附煙ヲ蔽ヒ、劍光月ニ染キリ加フルニ歐洲ノ戰亂ハ益々擴大シ、日米ノ關係ハ日ニ險惡ヲ傳ヘテ太平洋ノ波濤益々高キヲ加ヘントス。

一此秋ニ瀋リテ諸子ハ學窓ヲ出テ將ニ活社會ニ出デントス。諸子ハ世界ノ情勢ヲ遠觀日本ノ中核トナリ、大東亞新建設ヲ目指シ百折不撓ノ氣魄ヲ振起シ、試練ニ耐ヘテ自勵息マザルノ努力ヲ盡シ、道ニ從ツテ中正ヲ失ハズ事ニ當リテ滅私奉公克ク各自ノ職分ヲ通ジテ盡忠報國ノ至誠ヲ輸サルベカラズ。

方今我國蠶絲工業界ニ於テハ時局ノ影響ヲ受ケ原料減少ノ爲メ、生産激減シタル實地ニアルモノ多シ。我蠶絲業ハ緊迫化シタル國際情勢ノアラユル場合ニ處シテ安定ヲ期スル爲メ蠶絲業統制法ノ制定ニヨリ、海外依存ヨリ離脱シ、内需ニ轉換シテ是等不足セル纖維ヲ補ヒ是等ノ纖維ト混紡シテ是等ノ優秀ナラシメント爲シツ、アリ、即チ現下ハ蠶絲業ノ一大轉換期ニシテ技術者ノ最も活躍スベキ絶好ノ機會ナリ。斯業ニ關スル專門ノ學術ヲ修メ活氣溢セル諸子ノ爲メニ慶賀ニ堪ヘザル處ナリ。

諸子宜ツク進テ難局ニ當リ、苦境打開ノ先驅ヲ以テ任シ奮勵努力シテ國家ガ諸子ヲ養成シタル報恩ノ實ヲ舉ゲザルベカラズ。

終ニ臨ミ諸子ト別レ、ニ當リ一言センコトス社會ハ進轉シテ時止ムコトナク科學ノ進歩ハ日ニ新ナリ、諸子ハ我々ニ於テ修得シタル所ヲ基礎トシテ絶ヘズ研鑽ヲ重メ、修養ヲ怠ルコトナク學識ヲ廣メ人格ヲ向上シ志ヲ創作性ヲ發揮シ斯業ノ進展ニ貢獻シテ國家ガ爲メ材タランコトヲ志スルベカラズ。斯ノ如クシテ諸子ハ國家ガ諸子ヲ養成シタル主旨ニ酬ユル得ベク又以テ社會ノ期待ニ添ヒ得ルコトヲ信ズ。

技ニ諸子ノ前途ヲ祝福シ、成功ヲ祈ル。

## 昭和十六年度

## 入學許可者氏名

五十音順、○印ハ無試験檢定入學者

## 養蠶科(三十七名)

幾田 勝夫 長野

安倍 房吉 静岡

○荒井 漸 長野

○上野 正美 全

○遠藤 利治 全

柳原 修 富山

鹿子木 孝助 熊本

金澤 幸男 長野

川島 守 千葉

黒子 浩 東京

桑島 新一郎 群馬

小田 一等 長野

小平 一彦 全

佐々木 敦 静岡

鹽田 瑞 福島

島田 猪一郎 長野

清水 猛 全

白石 金造 長野

○田島 政三 長野

製絲科(三十四名)

相澤 甲子郎 長野

岩見 秀輝 長野

梅村 彰 長野

岡田 喜六 長野

小畑 弘 長野

大田 弘 長野

大橋 正夫 長野

春日 正一 長野

片山 元雄 長野

河合 敏雄 長野

川原 方巳 長野

熊谷 直美 長野

寺島 昌 長野

○遠山 嘉孝 全

富田 陽一 福島

長尾 泰次 全

成瀬 正夫 静岡

丹羽 久幸 岐阜

濱 佐三 長野

堀内 加三 全

牧野 嘉雄 全

松野 順平 全

丸山 伊平 長野

○望月 政明 長野

百瀬 新一郎 長野

柳澤 新久 長野

柳澤 正佳 全

山浦 友樹 全

渡邊 友樹 全

渡邊 友樹 全

佐野 茂一 長野

清水 茂一 長野

志摩 三善 長野

高畑 三善 長野

高畑 三善 長野

中島 利通 長野

中島 利通 長野

奈良 利通 長野

野向 利通 長野

日向 利通 長野

樋口 利通 長野

眞柄 利通 長野

宮田 利通 長野

喜一郎 和歌山

喜一郎 和歌山

喜一郎 和歌山

喜一郎 和歌山

## 入學試験問題

昭和十六年度

## 数 學

- 等比級数ヲナス三數アリ。其和ハ35ナリ。而シテ各數ヨリ夫々1,2,8ヲ減ズレバ等差級数ヲナスト云フ。三數如何。
- 半徑Rナル圓外ノ一點ヨリ此圓ヘ引ケル切線ハ此點ヨリ圓周ニ至ル最短距離ノ二倍ニ等シト云フ。此點ト圓ノ中心トノ距離ヲ求ム。
- 次ノ式ノ近似値ヲ小數第三位マデ求メヨ。  

$$\sqrt{9-2\sqrt{8}}$$
- 次ノ聯立方程式ヲ解ケ。  

$$x+y=5 \quad \frac{1}{x} + \frac{1}{y} = \frac{5}{6}$$
- 次ノ方程式ヲ解ケ。  

$$\log(x-1) - \log(x^2 - 5x+4) + 1 = 0$$

## 國 史

- 皇國の大使命を歴史的事實上に據りて闡明せよ。
- 日支交渉上重要な事象を年代順に概説せよ。

## 國 語

## 一、次ノ文ヲ解釋セヨ

いでや水を見よ、荒海のしほのみちひも、山川のたぎつはや瀬も、鏡なす池の面のさなみも、水の心にかはることやはある。廣きには深く、早きには勢つよく所せまきにはおのづからこまやかに、ほどほどにそのけぢめ見ゆるぞかし。人の心おきてもまたかくぞあるべき。

- 奈良佛教の時代に人々が佛教の藝術的印象から法悦を感じたらしいことは、さまざまの證據から確言することが出来る。既に佛教渡來時に於て佛教受容を決定せしめたものは佛像の與へた美的印象であつたと傳へられてゐるが、その後の佛教受容の努力は、佛教哲學の理解の仕事を除いては、主として造形美術の創作であつた。かゝる創作がそれを受用する相手なしに行はれたといふ様なことは、藝術の社會的意義を否定しない限り言ひ得ぬことであらう。さうしてこの受用こそはまさに藝術的法悦にほかならぬ。

上記ノ文ニ即シテ次ノ問ニ答ヘヨ

- (イ) 造形美術ノ創作ガ行ハレタノハ如何ナル理由ニ基クカ。
  - (ロ) 藝術ノ社會的意義トハ如何ナルコトカ
- 三、次ノ文ノ主眼點ヲ指摘シ且ソノ意味ヲ究明セヨ
- 善と惡との戰に於て明瞭に敵から味方の立場に立つことの出来ないものは、例外なく言ひ解くすべしなき怯者である。然し利害の戦思怨の争に於て兩者の孰れにも與せぬ者は必ずしも怯者ではない。寧ろ彼が明瞭に善の味方であるが故に、兩者の孰れにも與し得ぬやうな場合も決して少しとはしないのである。
- 四、次ノ文中ニアル片假名ノ語ヲ漢字ニテ記セ
- 徒歩旅行は單に心身を(1)タンレンタウヤするといふばかりでなく、(2)ソセンソンスウの精神を(3)カンヤウし、(4)キジンセンカクに對する(5)ケイギヤウキンボの情を深めると共に、大自然に對する(6)アイダヤクケイケンの念を高めるなど精神的(7)カウクワが大で特に(8)ソボタカンイな生活に(9)ナレさせる所にその(10)トクチャウがある。

## 化 學

- (1) 炭酸石灰に1規定硫酸100c.c.を加へて得らるべき炭酸瓦斯は溫度21度壓力756m.m.の狀態に於て幾c.c.なるか。但硫酸の分子量は98とす(答は小數第二位以下切捨のこと)
- (2) 弱鹽基と強酸とより成る正鹽又は強鹽基と弱酸とより成る正鹽を水に溶解するときは如何なる化學的變化を生ずるか各一例につきて説明せよ。
- (3) 次の諸問を説明せよ
  - a, 觸媒
  - b, 不飽和化合物
  - c, 還元
  - d, 分留
  - e, 電離度
- (4) アルデーヒド, エーテル, エステル, 炭火水素, 炭水化合物につきて各一例を挙げ且其分子式を記せ







朝鮮春の便り

○連翹鬱ゆるみて春淺し

陽春彌生も下旬となり黄ばみがかった連翹の蕾も一日とふくらみ早春とは云ふものの、未だ春淺く相當肌寒さを感ずる。三寒四温の永い冬眠生活より開放されやれと背のびをし柳の青味に花への歩みを知るとは云え朝晩はうすら寒くまだ温突のぬくみが懐しい。朝鮮早春の便りも此處京城南山の麓は喜久廻の二階から簡単に御傳へすることにする。

○南山の献燈まはらに春寒し

半島蠶絲業界味會有大會議が三月二十四日より四日間總督府に於て開催さる、と聞けば誰れしも朗になる。無慮六十餘名の人材共がズバリと整列、然して此れからの半島蠶絲業の進路は此より外に路なしと、曰く現在の統制を益々強化し計畫生産を實行し内地依存より脱脚し半島獨自の方法で云々……と大きな處を開かしていたその細目に至つては追つて發表するで會議は一先づ閉幕。

六十名の戦士中には新舊とリまぜ同窓も澤山居る。年に一度の會合だ、一杯飲もう、昨今銘酒は一寸手に入らぬがのつもりで若干水臭くとも我慢するさ、それでも酔はれる御人もあるとはさて、時局的な人も數の中には居られる先づ以て目度し。

歡談盡くるを知らず、和氣藹々裡に早春の一夜に名残りを惜しみ十時夫々御得意の穴に入る。

○小川邊の殘雪淡く猫柳

當夜の出席者を特別に御照會しよふ。開會に先立ち前會長矢澤技師には御尊父御逝去御歸郷中の爲め一同謹みて哀悼の意を表し遙に御冥福を御祈り申上ぐ。

△養蠶科

北澤、尾見、藤崎、後藤、中村、市川、矢島、宮本、新井、伊東、香山、木内の十二名、此の組は何れも官界人のみであり、禿頭燦然たる北澤、尾見の兩技師のもとに統

卒せられ近々新體制にととのふ新技師に御榮進せらるゝだろう。候補者三、四名居り春風胎動たるものあり金くうらやましき限りなり、切に御自重を祈る。

△製絲科

太田、牧野、林、藤井、原田、戸田、御子柴の七名は實業界人にして夫々の地位に居られ御活躍中、残り關、内藤、油井、大石伊藤、市村の六名は官界人、此の組は過去に於ては文字通り秋風落葉の感ありしも今や黎明光を放ち綠なす地平線の彼處に浮び上り將に跳躍せんとする。其の内恵まるゝ時もあり以て瞑すべし。

△紡績科

此の組は甚だ心淋しく實業界の笠原氏唯一人。

○摘算や聲はりあけて雲一つ

以上京城組を合算し總勢二十六名參集の盛況、プログラムは藤井、伊藤兩氏の幹旋により準備萬端手ぬかりなく豫定通り進行、宴なかばにして朝鮮千曲會互助規約第〇條に藤崎牧野兩氏はいと仲睦まじく該當者としての光榮を負ひ、即金十圓御寄進の餘興等あり今席に御出席なき他の該當者の方も須らく斯くありたし、當日の美舉として出席者一同の賞讃をはくしたりしことを特に附記し御參考に供す。

○紅梅や一輪づゝの暖かさ

早春肌寒いとは云ひ紅梅の一輪開く毎に春は深まる、やがて櫻も咲き桑の芽もふくらむ非常時とは云へ春となれば心も浮き……すの新體制下の蠶職は將に火蓋を切るうとしてゐる。苦難の過去十數年をきつぱりと精算し此れから新しきスタートを切らんとする吾々蠶人は心氣一轉猛進すべきではなかるか。茜さす夕陽は凋落であり黎明は生氣潑刺たる躍動を意見す。更生せる泰の業界は天下に其の第一聲を叫びんとする、世の識者よ老ひも若きも覺悟新たなるものありや。

(三、二七記)

軍隊生活斷片

絲二六 破 帽 生

學校を出て背廣の感觸を樂しみながら朝夕研究所の門をくぐり、エンジン爆音とターボの音を送り、プロットのカーブに無限の喜びを感じ、宇宙の眞理を今日も一つ發見したワイといふ氣になつて銀座を闊歩し、シニートラウスを聴きヘッセルの青春彷徨を熱讀して我が春を謳歌して居た。今から考へると實に「タルンデ」ゐた次第である。

一昨年の八月検査の結果甲種合格となつて嬉しかつた。とうとう俺も兵隊だ、一つしつかり頑固つてこようと悲壯なる決心をしたものである。昨年の〇月〇日、第〇航空教育隊に入營した。

クラス、メイトの多くが僕と同じ様に毎朝の起床ラッパでベソをかいて居る？事と思ふと、ほゝへましくなる。眼が覺める迄は修己寮の萬年床の中でグリスコグリスコやつてゐる様な氣であるが、ラッパが鳴るとイケネー此處は軍隊ぢやワイと思ひ出す。

東京の近くに居たものだから日曜日には大抵東京へ出て山岸や宮田や河野、外城さん等の家へ遊びに行つた。實際友人のアパートへ行くとなつたらなくなる。和やかな空氣がたまらなくなる、皆の親切が身にしみ涙の出る程嬉しくなる。朗らかな友人達の談笑がたまらなくなる。兵隊になると部屋總ての物が別世界の此の上もなく美しい物に感じられてならない。兵隊の生活は確かに修養になると思ふ、肉體も精神も健全になる事は確かだ。ヘッセル

「旅する心」を讀む、下宿から朝夕よく眺めた美しい雲を思ひ出す。寮の櫻が夕日に照らされてホロ／＼散つてゐる絶景を思ひ出す。帝都電車沿線の美しい景色を思ひ出す。寮の萬年床の中で聞いたカツコウ鳥の鳴聲を思ひ出す。(今でも鳴いてゐるだらうか)

陸軍〇〇學校を終へ、ピワ湖のすぐ近くの航空隊にやつて来た。爆音に明け、爆音に暮れる、毎日である。日中の訓練は猛烈だけれど其の他は至極呑氣である。人間がナマにならな様努めて勉強してゐる。

此の間彦根のクラス、メイトM君の所へ遊びに行つたら同じ會社のT氏(先輩)が地方の生活がいかに苦しいかと云ふ事を色々話してくれて、軍隊の方がいゝですよと言つてくれた。人間で養澤な者だと思つた。

軍隊へ来て健全なる精神と健全なる身體とを得る事が出来たらそれで充分である。ナポレオンぢやないが「不可能なし」と云ふ確信を掴む事が出来たらそれで充分である。僕はメンコの飯を食つた奴は幸福な奴だと思ふ。自分も幸福だと思つてゐる。今度社會に出た時、此の精神と此の肉體と此の腕で、俺達はずばらしい仕事を成し遂げられるぞと云ふ様な氣がしてならない。

寮に居た時分、同じ部屋で一語に屁を燃して喜こんでた橋本正太郎君、鈴木彦彦君、森三郎君は今どこで何してゐるのかな一時に手紙でもくれないかな一時報を何處かで見たら一つ頼むぜ。それから黒川君の所屬部隊も解らなくなつたが或は野戦にでも行つたのかと思つてゐる。黒川君も本誌を見た手紙を頼むぜ。

(三月十三日夜)

佐谷戸建次郎氏逝去

柏倉豐吉氏逝去

故吉川誠彦氏（蠶三）  
 故鈴木進氏（絲六）  
 故佐谷健次郎氏（蠶九）  
 故柏合豐吉氏（蠶一）  
 右四氏に對し弔慰金を募集致します。  
 故吉川氏、故鈴木氏は四月末日迄に取經め御  
 遺族へ贈呈致しますと思ひますから夫れ  
 に間に合ふ様振替口座東京四三三四一番  
 へ各故人に對する弔慰金の旨御記入の上  
 御拂込下さい。  
 昭和十六年四月

千曲會

死亡會員遺族よりの禮狀

故中島精一氏  
孫婿  
中島弘爾  
三郎

吊慰金報告

（四月七日現在）

故西谷剛一氏	一盾金	香山	清和
金壹圓也	金壹圓也		
故土屋安治氏	用金	吉越	繁夫
金貳圓也	金貳圓也		
故北本重郎氏	弔金	飯島輝雄	好士泰造
金五圓也	金五圓也	平	三好
有合計金拾九圓也	金拾九圓也	永田	彌市
故吉川誠彥氏	弔金	小林庸正	小山庸人
金參圓也	金參圓也	近藤正己	佐藤尙雄
金壹圓也	金壹圓也	堀江	荻田恭一
有合計金拾六圓也	金拾六圓也		

長野縣立下高井農學校長  
從五位勲六等佐谷健次郎氏  
の英靈を弔ふ

右合計金貳拾七圓也	金貳圓也	金拾圓也	故佐谷戶健次郎氏附金
	金貳圓也	針塚長太郎生俊興	
	金貳圓也	小曲會	
	金貳圓也	茂樹	
	金貳圓也	松村季美	

蒲生俊興

でも人生轉た朝露の如く人の世の儂な谷戸は今更  
君を弔はなまじき朝露の如く人の世の儂な谷戸は今更  
君と共に次第四でれば、年々立ちぬに世の窓に痛健康は  
君へ明に治し十丁四茨かな、我縣の龍起の崎は窓に痛健康は  
回生を卒業し學し、大正三年開設學に餘年第一、  
鳳科を卒業し學し、大正三年開設學に餘年第一、

[illegible]

醫の所謂急性黄色肝萎縮症として昏睡状態とならぬ速に救ふ。友人の急電に接し廿一日急遽北邊に馳参じたる時は或は或は意識なく只君の鍛えたる心臓のみは朝夕静脈注射を受くる葡萄糖や食鹽水は續けて常人以上の量に於ては只恨む正確に搏動と呼吸とをこの腦に對して施す策を知らぬ事である。連日不眠不休に御令聞や御家族の看護を受ける。三月廿五日終に嗚呼哀し哉。

功績に定はるる君が偉大なる實業教育のために盡されし手腕に對しては今後多大の期待がかけられし上、惜しい哉、働きの盛りの君が一道に嫺つて此の玉樓の主として去られたことは惜しみて尚ほ嗟吟、痛苦言ふ所を知りません。誠に私共窓生として幽明界を異にし、再び君の溫容に接する能はざるも君が實業教育界に貢獻せられたる偉大な業績と君の徳光とは長く後を照しし君の偉志は必ずや繼承せられまう。費くば革魂永へに晏んぜられよ。(十六、三、三十)



謹啓 久佐谷君健次郎儀病氣の處藥石効無ん  
三月二十五日永申候間併て生前の御厚誼を  
拜謝し此段御通知上候  
尙葬儀は去る三月三十日午後二時長野縣下  
高井農學學校(中野町)に於て校友会及同窓會  
合同葬を以て告別式相替り申候  
長野縣下高井郡中野町東町

社人團  
千曲會御中

友人總代  
全

親戚  
佐谷戶  
利隆  
一  
俊  
同  
辰三郎

故長野縣下高井農學校長  
佐谷健次郎氏に對する  
弔慰金募集

趣旨

等佐長谷戸縣立次郎井農學校校長從五位上  
句流性感冒に罹り十三日以來御自宅  
に於て専ら療養中なり  
葵結症を併發せられの處亞急性性血  
御令閤禮子夫人の不眠不休の御看護の  
甲斐も界に於て三月二十五日敢へて哀  
愁に堪へない次第であります  
舊臘上高井農學校長折井農學校  
外各般の校務以來東西殆ど家庭を顧  
で暇なく夙夜に勤め掌せられたる中  
御災を憂ひ又本年早稲御長女が先年  
炎に於て長野赤十字病院に御入院等重  
かり災難に御心を餘り痛む次第で  
此の際窓諸兄の御同情に訴へ應分の  
御寄與を仰いで聊か慰慰並に御遺児の  
育資金の一部にも存す次第であります  
ます存じます御多用中と存す次第であります  
成を仰ぎますやう此段折入て御願ひ申  
上追々御遺族は不取敢御令閤の御郷里  
佐賀縣に引上げ長女長男利隆君(中學  
五年生)及び長女長男謙一君(國民學校  
の事であります)の御教育に専念せられ  
敬具

御寄與金額、御隨意  
 御送金先、上田縣絲專門學校內  
 蒲生俊興宛、振替口座千曲會(東  
 京四三三四一番)を御利用の場合  
 は特に佐谷氏弔慰金の旨御記入  
 を乞ふ。  
 〆切期間 五月末日  
 昭和十六年四月  
 右發起人 原田兵衛  
 松村辰五  
 山本俊興  
 千曲會員各位御中



會員動靜 (四月十一日)

石倉新十郎 (現職) (勤)從前通(住)上田市上常田六八八橫澤敏井方  
遠藤保太郎 (現職) 新潟縣三島郡深才村大字福田一番戶  
千葉三郎 (現職) 中外化學工業株式會社(東京市王子區袋町一ノ一五二四)  
佐谷健次郎 (現職) (勤)從前通(住)靜岡縣沼津市住吉町三四七  
花岡作彌 (現職) 昭和六三、二五死亡、嗣子、佐谷月利雄(長野縣下高井郡中野町東町)  
田中康雄 (現職) 愛媛縣立伊豫實業學校(郡中町)(住)郡中町下吾川  
中島康雄 (現職) 三重縣立員辨實業女學校  
大熊康代 (現職) 慶尚北道鹽田產部農務課  
金子幸一 (現職) 群馬縣蠶業取締所安中支所(碓氷郡安中町)  
北原喜昌 (現職) 宮城縣是其榮蠶絲仙臺工場(仙臺市東八番丁)  
若林敏三 (現職) 安東省立寬甸國民高等學校(滿洲國安東省寬甸縣城)(住)寬甸縣城內公安街門牌三四號  
市川敏三 (現職) 松本支場(退職)(住)長野縣小縣郡中鹽田村大字中野四五八  
細川敏三 (現職) 岐阜縣多治見中學校(住)惠那郡長島町中野新田  
赤池勝男 (現職) 日本人造羊毛株式會社(大分市大字大分豐河原辨天島)  
竹之内不可止 (現職) 滿洲國通化省輝南縣公署  
西田正 (現職) 長野縣蠶業取締所松本市支所(松本市旭町)  
國島正 (現職) 奈良縣蠶業取締所下市支所(吉野郡下市町)  
橫山忠雄 (現職) (舊姓百瀬)鹿兒島縣研究所(鹿兒島縣掛郡山川町福元)  
瀧澤幸 (現職) 伊那中學校(長野縣上伊那郡伊那町)(住)伊那町山寺區高島源庫  
竹內好武 (現職) 南佐久農林家政女學校(南佐久郡北牧村)  
母袋忠右衛門 (現職) (勤)從前通(住)愛知縣寶飯郡蒲郡町大字蒲郡字舊廓一八二ノ六  
近藤二郎 (現職) 召集解除(勤)農林省蠶絲試驗場(東京市杉並區高圓寺)  
宮下弘 (現職) 召集解除(住)長野縣小縣郡鹽尻村七二六  
星野莊次 (現職) 大邱公立農林學校(住)大邱府大風町一三〇  
若林康弘 (現職) 長野高等女學校(長野市)(住)從前通  
目崎武美 (現職) 群馬縣立勢多農林學校(前橋市外)  
濱村長久 (現職) 長野縣立勢多農林學校(南佐久郡野澤町)  
山本榮次 (現職) 仙臺市、仙臺陸軍教導學校二中隊二區隊四七  
伊藤清 (現職) 濱野商事立石工場(退社)(住)上田市常八八七  
中村吉男 (現職) 滿洲第七二八部隊(間島省琿春)  
山口正紀 (現職) 片倉京城製絲所(朝鮮京城鐵道京城府西大門外二〇九)  
高橋玄雄 (現職) (住)茨城縣北相馬郡布川町二、八四一  
安雄 (現職) (勤)ナシ(住)長野縣上伊那郡朝日村  
高橋玄雄 (現職) (住)東京市豐島區西巢鴨二ノ二五八四  
高橋玄雄 (現職) (勤)ナシ(住)東京市日本橋區小網町二ノ一二電話、茅場町六六二、四七八(住)東京市澁谷區代々木初臺町五三九  
高橋玄雄 (現職) 若林製絲紡績小郡工場(山口縣吉敷郡小郡町)電話二〇番  
高橋玄雄 (現職) 華中蠶絲股份有限公司湖州出張所長(浙江省湖州同岑路三七號)

依田武治 (現職) (勤)ナシ(住)從前通  
清水重雄 (現職) 青森縣蠶業試驗場蘭檢定係(上北郡七月町)  
林直助 (現職) (勤)ナシ(住)長野縣下伊那郡市田村下市田七五  
前田益藏 (現職) 日本製絲株式會社(米子市錦町三丁目)  
萩原清治 (現職) (勤)從前通(住)上田市愛宕町四〇一一  
富岡秀一 (現職) 企劃院第四部(住)從前通  
柳澤榮一 (現職) (住)新潟縣北魚沼郡小出町  
吉平正三 (現職) 株式會社日立製作所、日立研究所(茨城縣日立市)  
西尾哲雄 (現職) 川西航空機株式會社研究所風洞係(兵庫縣武庫郡鳴尾村)  
四方藤雄 (現職) 室山製絲株式會社(三重縣三重郡四郷村)  
須江三郎 (現職) 那是製絲今市工場(島根縣縣川郡出雲町)  
島田林助 (現職) 川西航空機株式會社研究所(兵庫縣武庫郡鳴尾村大字大東一)全上  
橫澤茂平 (現職) (住)上田市海野町  
一之瀬英一 (現職) 日立製作所(茨城縣日立市)  
清水正克 (現職) 山口縣蠶業事務所(山口市)(住)山口市後河原一五番地  
田口清一 (現職) 商工省蠶業輸出毛織物検査所足利支所(足利市綠町二丁目)  
青木善次 (現職) 本校製絲科  
羽田滿 (現職) 召集解除(勤)鐘紡高砂人絹工場(兵庫縣加工郡高砂町)  
土生正人 (現職) 全國製絲業組合聯合會(東京市龜町區有樂町一ノ七、蠶絲會館內)  
井上典二 (現職) 片倉、鹿兒島工場(鹿兒島市原良町一六五五)  
小川典二 (現職) 本校蠶維化學科  
富永暉 (現職) 陸軍防空學校幹候隊一中隊三區隊(千葉市小仲臺町)  
中島德健 (現職) 橫須賀海軍航空技術廠材料部第四科(橫須賀市浦郷)(住)橫濱市磯子町兼町一八  
山岸清保 (現職) 出雲製絲石見人絹工場(島根縣高津町)  
阿久澤清 (現職) (住)東京市本所區橫綱九番地  
岡崎喜熊 (現職) 橋館製絲株式會社(埼玉縣本庄町)  
市村圭吉 (現職) 滿洲國經濟部工務司(新京特別市)  
市村向文 (現職) (勤)從前通(住)金澤市臺所町七番丁一四番地  
竹內方榮 (現職) 群馬縣工業試驗場(前橋市岩神町)  
佐久間幸一 (現職) 召集解除(勤)吳羽紡績工場(福島縣石城郡錦町)  
星田馨 (現職) 〇月〇日召集解除(勤)吳羽紡績工場(福島縣石城郡錦町)  
上田正三 (現職) 大日本紡績山崎工場(住)大阪府三島郡島本町大字山崎饅ヶ丘社宅  
岩本一郎 (現職) 滿洲國東安省二七〇部隊大橋隊  
北澤茂樹 (現職) 召集解除(住)兵庫縣加古川町二四八  
小島武明 (現職) 東洋レヨン瀨田工場(滋賀縣栗太郡瀨田町)  
東海林誠治 (現職) 商工省京都縣出納物検査所西ノ京支所(京都市中京區西大路三條上ル)  
佐藤かち (現職) 防空兵第八部隊  
小林みよ (現職) (住)長野縣小縣郡鹽尻村秋和  
渡邊きよ (現職) (住)長野縣小縣郡縣村字田中  
萩原さか (現職) (勤)ナシ(住)長野縣北佐久郡北御牧村布下  
萩原さか (現職) 昭榮製絲株式會社(東京市日本橋區吳服橋三ノ七)(住)從前通



千曲會指定旅館案内

大	京	名	東	全	上	全	戸	全	上	信	上
阪	都	古	京	全	山	全	倉	全	市	州	田
〃	〃	〃	目下交渉中	圓山莊	清風園	上田館	笹屋ホテル	柏屋別荘	花屋ホテル	鐵道省山の家	菅平ホテル
旅 館 名											
所 在 地											
全				全	全	全	(信州戸倉温泉) (戸倉驛ヨリバスニテ一〇分)	全	(信州別所温泉) (上田驛ヨリ電車ニテ三〇分)	全	信州菅平高原
電 話				上田 代表五六番 一六番 戸倉 一一四番(別館) 三六番	上田 代表五六番 一六番 戸倉 一一四番(別館) 三六番	上田 代表五六番 一六番 戸倉 一一四番(別館) 三六番	上田 代表五六番 一六番 戸倉 一一四番(別館) 三六番	別所 一三番 三一番 別所 一二番 一二番	別所 一三番 三一番 別所 一二番 一二番	菅平 呼出 一三番 三一番	上田 三四四番
一泊二食付一泊二食付一泊二食付一泊二食付				五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	六、〇〇	五、〇〇	六、〇〇	五、〇〇	五、〇〇
二泊二食付二泊二食付二泊二食付二泊二食付				四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇	五、〇〇	四、〇〇	五、〇〇	四、〇〇	四、〇〇
室 料				浴室付貸別荘ハ一軒三圓ヨリ 但シ定員三名以上ハソノ割増 フ頂戴シマス	浴室付貸別荘ハ一軒三圓ヨリ 但シ定員三名以上ハソノ割増 フ頂戴シマス	浴室付貸別荘ハ一軒三圓ヨリ 但シ定員三名以上ハソノ割増 フ頂戴シマス	浴室付貸別荘ハ一軒三圓ヨリ 但シ定員三名以上ハソノ割増 フ頂戴シマス	浴室付貸別荘ハ一軒三圓ヨリ 但シ定員三名以上ハソノ割増 フ頂戴シマス	浴室付貸別荘ハ一軒三圓ヨリ 但シ定員三名以上ハソノ割増 フ頂戴シマス	浴室付貸別荘ハ一軒三圓ヨリ 但シ定員三名以上ハソノ割増 フ頂戴シマス	浴室付貸別荘ハ一軒三圓ヨリ 但シ定員三名以上ハソノ割増 フ頂戴シマス
サ ー ビ ー				二割以内	二割以内	二割以内	二割以内	二割以内	二割以内	二割以内	二割以内

**教婦養成科ノ部**

岡田 十三子 昭榮製絲小山試験所(栃木縣小山町)  
北村 信子 昭榮製絲本庄工場(埼玉縣本庄町)  
小林 節子 農林省蠶絲試驗場(東京市杉並區高圓寺)  
五味 郁代 東京府是製絲株式會社(西多摩郡青梅町)  
坂井 五月 昭榮製絲一之關工場(岩手縣一之關町)  
春原 行子 昭榮製絲小山工場(栃木縣小山町)  
遠山 秀子 昭榮製絲株式會社(奉天省瓦房店)  
柳澤 安枝 滿洲製絲株式會社(奉天省瓦房店)

**編輯室より**

△烏帽子岳、猪岳の残雪も僅かとなり、櫻は去年より早く己に二十日満開を過ぎた。桑の芽も開き始め、そよ風の感觸、陽の温み、快い歩行の候である。

△母校の重鎮遠藤教授の退官は、惜しまても盡きない、先生の學識、福徳に永く御接ししたい。

△新卒業生が社會に力強く分散突進して行つた。各位も職域奉公に協力しよう。

△御寄稿全部本月號に掲載不可能でした。次號に致したい。投稿者の御諒承を乞ふ。

△最近原稿が次々に寄せられて嬉しいが、一行二十字詰になつてゐないのには不便する。今後は是非二十字詰に願ひたい。

△尚一、二面を飾る記事が同窓各位の方から出る事が少いのは會員同志の誠意が足りない様な氣がする。

何卒各位が振つて御投稿下さる様御願ひす。

(小松、町田)